



鹿児島県立埋蔵文化財センター
設立 20 周年記念フォーラム

「遺跡から見える鹿児島の歴史と文化」

鹿児島県立埋蔵文化財センターは今年で設立 20 年を迎えました。この間、新幹線敷設等の大規模開発に伴う発掘調査など数多くの事業を行い、上野原遺跡の発見をはじめ、多くの成果が得られました。

今回のフォーラムでは、これまでの発掘調査で得られた各時代毎の成果や、新たに見えてきた課題を紹介し、鹿児島の歴史、文化、遺跡の活用方法などについて会場の参加者と共に考えていきます。

日時 平成 24 年 11 月 17 日 (土) 13:00 ~ 16:30

場所 霧島市国分シビックセンター 2F 多目的ホール

日程 13:00 ~ 13:30 開場・受付

13:30 開会

13:30 ~ 13:40 プロローグ

「鹿児島の遺跡はおもしろい！」 國師洋之・益山郁恵

13:40 ~ 14:50 遺跡が語る鹿児島の歴史 -1-

鎌倉~江戸時代 (13 ~ 19 世紀)	関 明恵
飛鳥~平安時代 (7 ~ 12 世紀)	東 和幸
弥生~古墳時代 (前 8 世紀 ~ 6 世紀)	川口 雅之

14:50 ~ 15:00 休憩

15:00 ~ 15:50 遺跡が語る鹿児島の歴史 -2-

縄文時代 (13,000 ~ 2,700 年前)	黒川 忠広
旧石器時代 (31,000 ~ 13,000 年前)	馬籠 亮道

15:50 ~ 16:30 対談 ~どう活かす 鹿児島の遺跡~

児玉 ゆりえ さん , 寺田 仁志 , 堂込 秀人

16:30 閉会

主催 鹿児島県立埋蔵文化財センター
共催 霧島市教育委員会

問合せ先 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4318 霧島市国分上野原縄文の森 2 番 1 号

電話 0995-48-5811 FAX0995-48-5821

E-mail maibun@jomon-no-mori.jp URL <http://www.jomon-no-mori.jp/>



—発表の主な内容—



関 明恵（鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事）

【鎌倉～江戸時代】

豊臣政権末期、薩摩にはなかったすぐれた製陶技術が朝鮮半島からもたらされ、薩摩焼が誕生します。また、薩摩焼がなかった鎌倉時代や室町時代、安土・桃山時代は、中国との交易により、数多くの陶磁器が輸入されました。発掘調査から解明された成果をもとに、薩摩焼のルーツや大陸からもたらされた珍しい焼き物についてお話しします。

東 和幸（鹿児島県立埋蔵文化財センター調査第一課第一調査係長）

【飛鳥～平安時代】

大和地方から遠く離れた南九州は、地域によって時間をおきながら、中央政権に組み込まれたようです。大和地方と同じような出土品や、建物が建てられた方向などから、当時の様子を探ってみたいと思います。文献史料がわずかしかない時代ですので、遺跡が各地域の歴史を探るための大きな手掛かりになります。一緒に謎解きをやりましょう。



川口 雅之（鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事）

【弥生時代～古墳時代】

弥生時代の鹿児島は、奄美・沖縄諸島との交易窓口として重要な地域でした。また、古墳文化の南限にあたり、大隅半島には前方後円墳の他に、地下式横穴墓など地域色豊かな墓制が発達しました。

今回の発表では、近年の調査成果から、本県の特徴を示す重要な遺跡について報告します。

黒川 忠広（鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事）

【縄文時代】

約1万年間続いたとされる縄文時代。霧島市上野原遺跡の発掘調査成果など定説を覆すような発見や、これまでの発掘調査によって様々なことがわかってきました。今回のフォーラムでは、最新の調査事例なども織り込みながら、鹿児島の縄文時代と人々の生活・文化を紹介します。



馬籠 亮道（鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事）

【旧石器時代】

南九州は、鹿児島の特徴ともいえる火山灰によって旧石器時代の石器の変遷がよく分かる、全国的にも恵まれたフィールドです。20年間の調査によって分かってきた、シラス台地に生き、火山の恵みを巧みに利用した旧石器時代の人びとのすがたを、わかりやすく紹介します。

—対談—

会場のみなさま方とこれまでの遺跡発掘の成果についてふりかえり、今後の発掘調査に期待することや埋蔵文化財の活用などについて考えます。



寺田 仁志
（埋蔵文化財センター 所長）



児玉 ゆりえさん
（遺跡サポーター）



堂込 秀人
（埋蔵文化財センター 調査第一課長）